

さめきこくふあと
令和5年度讃岐国府跡発掘調査の成果

今回の調査では、昨年度実施した40次調査の大溝につながるような国府の区画施設は見つかりませんでした。が、国府が役所の機能を失って以後の様子を明らかにすることができました。

溝状遺構 SD04 (中央)・土坑 SK02 (右) 北から



SD04 と SK02 は、埋土の様子から近接した時期の遺構と考えられます。時期の分かる出土遺物が無く、帰属時期は不明ですが、近隣の調査例から飛鳥時代に掘られたものと考えています。

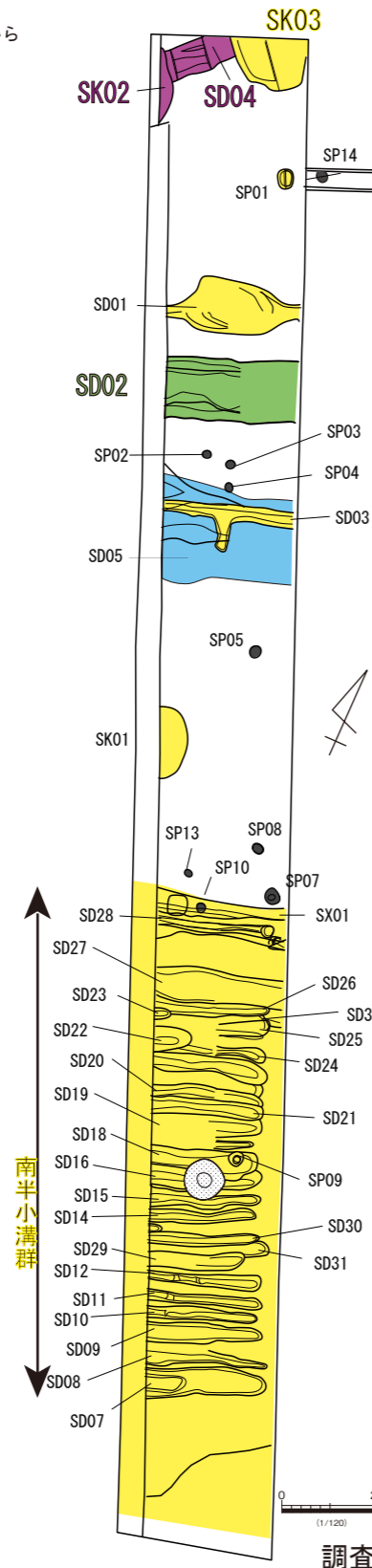
南半小溝群 東から



SX01 以南で確認できる約 0.2mの高さの段落ち。段落ちの下段には幅 0.1～0.3m程の浅い小溝を多数確認しました(右図矢印の範囲) これらの溝はいろいろな深さから掘り込まれており、埋まり方も多様です。溝の底部には凹凸が観察できるほか、断面形状が三角形を呈する場所があります。田畑での耕作に伴う犁溝(すきみぞ)であると考えられます。出土した遺物はごくわずかで、江戸時代前半頃のものが中心です。

調査地全景

南から 道路の反対側は40次調査地



調査地遺構配置図 (S=1/150)

土坑 SK03 南から



やや深い箱形の断面で、ほぼ単層に近い形で埋められており、開削後すぐに埋められたと考えられます。

溝状遺構 SD02 (中央) 東から



幅約 1.2m、深さ約 0.4mを測り、条里の地割方向の主軸を持ちます。埋め土は大きく3層に分けられ、下層は砂が堆積し、流水状態にあったと考えられます。上層は埋め戻しによるものと考えられ、破損した土器片や石などをやや多く含みます。これらの土器は概ね鎌倉時代後半から室町時代前半頃のものが多く、概ね上層にまとまるため、室町時代に埋め戻されたと考えられます。

凡例

■	飛鳥時代以前
■	飛鳥時代 (7世紀後半～8世紀初頭)
■	室町時代 (14～15世紀)
■	江戸時代 (17～19世紀)
■	時期不明
■	攪乱



香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

tel. 0877-48-2191 fax. 0877-48-3249

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/maibun/index.html>

いにしへの
讃岐

NO.117



令和6年5月25日に実施した岡田東下土居遺跡(丸亀市)現地説明会の様子

香川県埋蔵文化財センター 調査速報展

— 令和5年度の調査 —

香川県埋蔵文化財センターが令和5年度に実施した遺跡の発掘調査成果について、遺物や写真パネル等の展示により紹介します。

なかやまきた 中山北遺跡 東かがわ市中山

中山北遺跡は東かがわ市西端の山麓で、谷と平野が接する部分にあり、令和4年度から発掘調査を行っています。令和5年度の調査では縄文時代晩期ごろ（約3,000年前）の柱穴や巨樹（クスノキ）の根、古代（平安時代 約1,200年前）の水路跡、中世（鎌倉時代ごろ 約800年前）の水田跡などが見つかりました。

南側に位置する令和4年度の調査区では縄文時代の竪穴建物跡が見つかり、今回の調査で、居住範囲がさらに北に広がることわかりました。また、その北で見つかったクスノキの根は当時の植生や人を取り巻く環境を考えるうえで貴重な資料になりました。

ふさぎき 房前遺跡 高松市牟礼町原

房前遺跡は志度湾の西側、北東に延びる丘陵の南側の付け根にあります。遺跡の100mほど東には、波に運ばれた砂礫が堆積してできた砂堆が南東方向に細長く延び、その前面が海、背後には内海があったと推測できます。調査区南端では多数の石に混じり、鎌倉時代（約800年前）から室町時代（約700年前）の足釜等の土師器、東播系須恵器、石鍋などがまとまって出土しました。他地域で生産された東播系須恵器や石鍋が出土したことやその立地から、近くに港湾施設が存在した可能性があります。

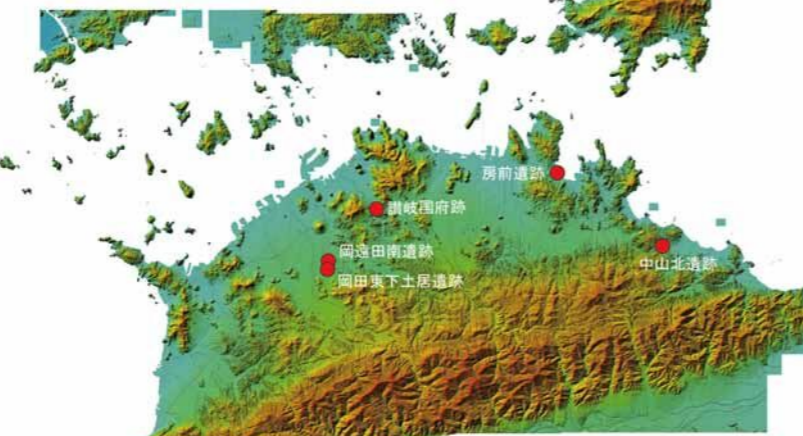


▲調査区南端の遺物出土状況（鎌倉時代～室町時代）



▲石組み土坑（江戸時代） 房前遺跡

会期 令和6年5月27日（月）～9月6日（金）
土・日曜・祝日は休館
会場 香川県埋蔵文化財センター 第1展示室



遺跡位置図（国土地理院地図 GSI/Mapsをもとに作成）



▲牛の足跡が残る中世の水田跡



▲縄文時代晩期ごろのクスノキの根

おかとおだみなみ 岡遠田南遺跡 丸亀市飯山町上法軍寺

岡遠田南遺跡は丸亀平野南西部に広がる岡田台地上にある遺跡で、令和4年度から発掘調査を行っています。調査の結果、弥生時代から平安時代中期（約2,500～1,000年前）までの遺構・遺物が見つかりました。

古墳時代末～奈良時代初頭（約1,450年前～約1,300年前）の掘立柱建物跡は10棟確認されました。これらは短期間に何度も建て替えが行われ、規模や向きが変化していました。古墳時代末（約1450年前）には建物の向きが不規則でしたが、飛鳥時代前半（約1400年前）に真北に変化し、飛鳥時代後半（約1350年前）以降は北西の方位となりました。

特に、飛鳥時代前半の3間×3間の大型の掘立柱建物跡の近くの落ち込みからはほぼ完形の須恵器杯身・杯蓋が折り重なった状態で出土しました。

おかだひがししもどい 岡田東下土居遺跡 丸亀市綾歌町岡田東

岡田東下土居遺跡は丸亀市の南部に広がる、岡田台地の中央部に位置する集落遺跡です。今回の発掘調査では土師器甕を据え付けた土坑や瓦を投棄した土坑といった近世～近代（約300～100年前）の遺構に加え、牛耕の痕跡である牛の蹄跡や縄文時代と考えられる石鏃も見つかりました。

土師器甕は極端に劣化しており、内部には粘り気のある土が堆積していたことから肥溜めとみられます。土坑から出土した瓦は、丸瓦・平瓦や軒瓦など様々な種類があることから、近隣に本瓦葺きの建物があったことがわかりました。

今回の発掘調査では、遺跡の約500m西北にある中世の大坪屋敷跡に関連する遺構を検出することはできませんでしたが、近世～近代の田畑や集落の痕跡に加え、付近には縄文時代の遺跡があることがわかりました。



▲掘立柱建物群



▲1区の全景



▲肥溜めに利用された土師器甕

いしなべ とうぼん 石鍋と東播系須恵器



石鍋（写真左）とは平安時代から室町時代にかけて生産された煮炊き用の鍋です。材料となる滑石は加工しやすく、保温性に優れています。長崎県や山口県で製作されました。

東播系須恵器鉢（写真右）は平安時代末期から室町時代にかけて兵庫県東南部（現在の明石市・神戸市西部・三木市）で生産された調理用のこね鉢です。これらの遺物は西日本一帯に流通するため、当時の流通を考えるうえで重要な手がかりになります。